

生活の中の図書館：図書館と福祉で育む子どもの読書環境

令和3年地域政策研究センター 地域協働研究【ステージⅡ】 採択課題

課題名：未就学児の親子を対象とする教育福祉の複合的読書支援プログラムの実践

研究代表者：社会福祉学部 准教授 櫻 幸恵

課題提案者：北上市立中央図書館 児玉康宏

研究メンバー：下平なをみ(社会福祉学部)、児玉康宏・高橋香織(北上市立中央図書館)、高橋美知子(NPO法人うれし野こども図書館)

技術キーワード：子どもの読む権利、読書支援、教育と福祉の連携、生活の中の図書館

▼研究の概要（背景・目標）

背景：未就学児の家庭環境により蔵書数や読み聞かせ等の親の関与、図書館利用に格差

目標：読書環境が整わない家庭に対し**公立図書館と保健福祉が連携し複合的読書支援**を実施、親子が本に親しむ機会を創出し、家庭の読書環境を支え、**子どもの読む権利を保障**

▼研究の内容（方法・経過）

図書館と保健福祉が連携し「複合的読書支援プログラム」を2021-2022年度に実践検証

- (1) 幼保の園と連携／子ども目線の図書館開放
- (2) NPOと連携／良書の選書と子ども向け配架
- (3) 保健福祉と連携／館外絵本空間の創出と貸出
- (4) 福祉や地域資源と連携／読書支援・子育て支援の**複合的親支援プログラムの地域実践**

▼研究の成果（結論・考察）

“**利用者の生活の中にある図書館**”として、親子に読書の楽しさを伝える今回の試みは、本に触れる機会が少ない**親子の読書環境や子育て支援に一定の効果が期待できる結果**だった。子ども目線の図書館開放、親子が良書を手に取りやすい工夫、館外に絵本空間を創出、絵本を使った子育て講座などの取組は**利用者主体の意義が認められる**。また、保健や福祉との分野横断の連携は、**地域で子どもの読む権利を支える新たな試み**といえる。但し、コロナ禍で検証に限界があり、今後継続して検証を進める必要がある。

◆ 複合的読書支援プログラムの概念図



(1) 図書館開放
※ 自由に本を楽しむ・寝転んでもOK



幼保の園へ招待状

(2) 選書とレイアウトで良い本を子どもが借りたくなる工夫
※貸出ベスト10に大きな変化(ノタン・かいけつゾロリ色から変化)

令和3年度ベストリーダー			令和4年度ベストリーダー		
No.	書籍名	作者	No.	書籍名	作者
1	はじめてのおつかい	西井順子・さく／林明子・え	1	はじめてのおつかい	西井順子・さく／林明子・え
2	ほんだいてす	田代淳一・ぶん／ふくしまあきこ・え	2	ほんだいてす	田代淳一・ぶん／ふくしまあきこ・え
3	サンドイッチサンドイッチ	小西真子・さく	3	サンドイッチサンドイッチ	小西真子・さく
4	こんとあき	林明子・さく	4	こんとあき	林明子・さく
5	みんなうんち	五味太郎・さく	5	みんなうんち	五味太郎・さく
6	あれこれたまたご	とりやまみゆき・文／中の道／絵	6	あれこれたまたご	とりやまみゆき・文／中の道／絵
7	アキラからみる	森田隆一・文／黒崎晴彦・写真	7	アキラからみる	森田隆一・文／黒崎晴彦・写真
8	とんとんとめてくたさいな	こいでたん・ぶん／こいやすこ・え	8	とんとんとめてくたさいな	こいでたん・ぶん／こいやすこ・え
9	かいけつゾロリのまほうつかいのでし	原ゆたか・さく	9	かいけつゾロリのまほうつかいのでし	原ゆたか・さく
10	まるまる	中江壮子・さく	10	まるまる	中江壮子・さく

(3) 乳幼児健診会場で絵本空間を創出⇒健診会場で見た絵本を、おやこセンター・としび号・図書館本館で複層配架して借りやすく

日時	施設名	受診者(人)	健診室絵本利用 冊数(組)	健診室→おやこ センター利用冊数 (組)	健診室→とし び号利用冊数 (組)	うち、とし び号貸出冊数 (組)
R4.9.21	2歳6か月健診	13	10	2	3	1
R4.9.30	3歳6か月健診	18	18	2	3	2
R4.10.13	2歳6か月健診	13	11	0	4	1
R4.10.19	2歳6か月健診	20	18	0	4	1
合計		64	57	4	14	5
割合(%)			89.1	6.3	21.9	7.8

♡ 保健・子育て複合施設hoKkoで図書館の絵本に囲まれて学びました！楽しかった♡

(4) 読書支援・子育て支援の複合的親支援プログラムの地域実践
※託児付きで絵本を楽しみ子育てを話し合い、自宅で読み聞かせ実践
！絵本を使った子育て講座⇒とても良かった100%
！子育てに変化⇒とてもあった88%、まあまああった12%
！絵本や子どもの本に関する変化⇒とてもあった100%

▼おわりに（まとめ・今後の展開）

- 1.地域に暮らす多様な子どもの「読む権利」を支える新たな試みとして、生活の中の図書館である公立図書館が、保健福祉と連携して実施する「複合的読書支援プログラム」には一定の意義と効果が認められた。
- 2.ただし、研究期間(2021-2022年)はコロナ禍だったため、実施内容及び成果の検証に大きな制約と限界があった。この試みの成果を普遍化するには、今後も継続実施してさらに検証を加える必要がある。
- 3.本研究にご協力いただいた北上市の関係各位、本プログラムの利用者各位、盛岡市のNPO法人うれし野こども図書室に心から感謝申し上げます。